平成 28 年度　事業実績報告書

社会福祉法人　海士町社会福祉協議会

平成 28 年度　海士町社会福祉協議会事業報告書目次

法人運営に関する事業（会議及び会費・研修会等） …… －2－

1．理事会・役員会・評議員会・監査会・経営会議・職員会議
2．会員会費及び篤志寄付等
3．会議・研修会等
4．視察・実習・講演・掲載

地域福祉事業 …… －12－

1．地域住民の多様な生活・福祉課題に向けた総合相談・セーフティネット機能
2．成長段階に応じた福祉学習の推進
3．地域における子育て支援体制の充実・強化
4．福祉団体の主体的参加による地域福祉活動の支援
5．地域住民の主体的な参加による生涯現役のまちづくり

地域支援事業 …… －15－

1．出前サロンこぞって
2．認知症高齢者等をかかえる家族に対する支援事業
3．食の自立支援事業
4．会食サービス
5．ふれあい・いきいきサロン

在宅福祉サービス事業…… －17－

1．訪問介護部門
2．居住（生活支援ハウス事業）部門
3．通所介護部門
4．居宅介護支援部門
5．福祉用具貸与部門

保健センター事業 …… －23－

法人運営に関する事業(会議及び会費･研修会等)

【平成 28 年度の重点目標・計画の評価】

総合方針

〇総合事業移行への準備

平成 29 年 4 月から介護保険制度の改正により訪問介護事業と通所介護事業の要支援者が介護保険から新しい総合事業へ移行する。職員はもとより、住民への制度理解を徹底し、新たな支え合いの仕組み（新たな支え合いファンド等を活用した有償サービスの整備等）を検討する。また、専門職として専門技術、認知症や暮らしを支える視点等技術向上を行い、サービスの重度化へシフトを図る。

介護保険改正による新しい総合事業への移行へ向けて、役場と再三協議を行った。平成 29 年度からはサービス提供を介護度重度の利用者へ、軽度者へは地域での支えあいに移行するべく仕組みづくりを検討した。また、RX 組の青山先生や下山名月先生などの有名講師に来島いただき、内部活性を図るとともに、事業部門での独自研修にも力をいれて認知症研修や感染症研修、介護食（口腔ケア）研修、移動介助研修などを行った。学んだことを現場に生かすことに繋がらないこともあった。

〇福祉魅力化

平成 27 年度に開始した福祉魅力化プロジェクトを継続し、海士町の福祉が魅力的になるために、職員一人ひとりがマイプロジェクトをもち、階層別の職員研修を充実する。海士町の福祉専門職者として専門性を高めるために、介護技術や相談業務、福祉用具の理解等を研修し、常にフィードバック（振り返り）を行うとともに、サービスのモニタリング（評価）を全職員で行う。また、様ざまな交流により暮らしを見つめる視野を広げる。

様々な研修機会があったが、自らのマイプロジェクトを掲げるに至らず、受身の研修をする場面も多かった。福祉の専門職として、PDCA サイクルで業務を行うことができず、フィードバックやモニタリングの意識に課題が残った 1 年であった。

〇地域福祉活動計画

第 3 期地域福祉活動計画「生き生きと死ねる島」の 2 年目である平成 28 年度は生涯現役の島として、医療・福祉・保健の連携はもとより、さらなる多業種連携を図る。（多業種）×福祉で福祉の魅力化を推進し、多業種が講師となる「海士町社会福祉協議会版夢ゼミ」を年 4 回開催する。また、農業と福祉が連携し支援が必要な状態になっても、菜園山（畑）に通うことのできる支え合いの仕組みを作る。

漁協やセラピスト、建築設計など多職種の講師による福祉×（　　）ゼミを開催した。また、様々な分野の視察を受け入れ、福祉×（　　）で暮らしを支えることを目指した。ゼミや視察を進めるにつれ、職員一人ひとりが「生き生きと死ねる島」をわが事として捉えていない現実も見えた。平成 29 年度は海士町社会福祉協議会の職員として再度、地域福祉活動計画を熟知し、「生き生きと死ねる島」をわが事として仕事ができるよう進めていく。

〇福祉学習

福祉学習は 2 つの柱で行う。１つは島民に対する福祉学習。今までも小中高校の成長段階に合わせた福祉学習を展開してきたが、平成 28 年度は各学校へ福祉学習のプレゼンを行い、学校と学習の視点を共有した上で、細分化した福祉学習を展開する。地域住民に対しては、各地区で認知症の座談会（勉強会）を行う。もうひとつの柱は、島外の学生や視察の受け入れである。島外者に海士町の福祉の魅力を体験してもらうことで、海士町への移住につなげ福祉人材を確保する。そ

のために地域おこし協力隊を福祉人材確保コーディネーターとして配置し、様々な情報発信や調整を行う。

成長過程に沿った福祉学習は保育園から島前高校まで様々な体験学習を行うことができた。特に島前高校とはボランティアから夢ゼミ、夢探求など日本の未来を見据えた学びを行うことができた。4 月に発生した熊本の震災には現地に行くことはできなかったが、島でできることを考え街頭募金を行った。NPO 法人 Ubdobe との人材確保企画では東京での講演、島の福祉体験受入など様々な交流を行い 1 名海士町社会福祉協議会での採用が決まった。

〇障がい者福祉

障がい者雇用の中間施設として、様々な就労スタイルを提供し、海士町の企業につなげる。平成 28 年 4 月より障害者差別解消法、障がい者の雇用の促進等に関する法律が施行される。制度理解を徹底し、住民や関係企業等への周知を図る。また、町民の障がい者理解のために「あいサポーター研修」を開催する。

障がい者の雇用を考える 1 年となった。海士町社会福祉協議会にさくらの家から作業に来ていた方が島内で一般就労が決まり送り出した。あいサポーター研修の講師ができるメッセンジャーを 1 名育成したが、町内でのあいサポート研修は学生向けしか開催できなかった。

〇保健センター

保健センターは開所から 20 年が経ち老朽化が進んでいる。「ひまわり」の愛称で親しまれている交流の場を行政と協議しながら継続して運営する。また、新たな視点を持ち（認知症）カフェの開設など、多様な人たちの交流の場となるよう検討する。

エアコンと雨漏りの改修を行い、ランニングコストを抑えることができた。また、ケア＆キュア構想として、心の癒し空間を島のほけんしつに相談しながら企画し、出張島のほけんしつを定期的に開催することができた。

〇社協組織の円滑な運営

平成 27 年度までのスローガンであった「共力して楽しい組織」を踏襲し、部署を超えた協力体制と様々な共有を行い、チーム海士町社会福祉協議会として運営を行う。また、平成 28 年度から法人運営部、施設運営部、総合相談部と 3 つの部と管理者（部長）を設置し組織再編することで、統制のとれた組織運営を目指す。さらに、平成 29 年度に施行される改正社会福祉法を熟知し、定款変更や役員体制の検討を行う。

3 人の部長を作り新たな組織をとして出発した。20 回の局長・部長の経営会議、部長と主任の事業所連絡会、局長を加えた拡大部長会議を開催して情報共有を図った。また、パソコン上でカレンダーを共有し、スケジュールの見える可をした。事務所の机をフリーにし、どこに座ってもいいように工夫もした。

制度改正では海士町の 4 法人の連絡会を作り、毎月情報交換をして進捗状況や予定表などの共有を行った。

１．理事会・役員会・評議員会・監査会・経営会議・職員会議

（１）理事会

第１回	平成 28 年 5 月 24 日（火）	趣味の部屋	出席 6 名
議題	１．平成 27 年度事業報告・決算報告について ２．監査報告 ３．平成 28 年度第 1 回補正予算（案）について ４．その他		

第 2 回	平成 28 年 6 月 1 日（水）	趣味の部屋	出席 7 名
議題	１．会長の選任（互選）について ２．副会長の選任（互選）について ３．職務代理の指名について ４．その他		

第 3 回	平成 28 年 12 月 22 日（木）	趣味の部屋	出席 7 名
議題	１．平成 28 年度第 2 回補正予算（案）について ２．定款変更について ３．評議員選任・解任委員会運営細則の策定及び委員の選任について ４．介護・育児休業規則の一部改正について ５．その他		

第 4 回	平成 29 年 3 月 3 日（金）	趣味の部屋	出席 7 名
議題	１．福祉従事者雇用促進拠点施設指定管理について ２．その他		

第 5 回	平成 29 年 3 月 24 日（木）	趣味の部屋	出席 7 名
議題	１．平成 28 年度第 3 回補正予算（案）について ２．定款変更について ３．理事会運営規程　評議員会運営規程の策定及び事務処理規程の改正、定款細則の廃止について ４．評議員・理事・監事選任規程の策定及び評議員選任規程の廃止について ５．役員等で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する規程の改正について ６．経理規程の改正について ７．評議員の推薦について ８．平成 29 年度事業計画及び予算案について		

（２）役員会

第１回	平成 28 年 5 月 23 日（月）	会長室	出席 3 名
議題	１．平成 28 年度　第 1 回理事会提出議案について ２．その他		

第２回	平成 28 年 11 月 1 日（火）	会長室	出席 3 名
議題	１．社会福祉法制度改正について ２．福祉従事者雇用促進拠点施設について ３．その他		

（３）監査等

○内部経理監査　　5 月 18 日（水）　監査担当　福島敏枝　佐々木裕之

○海士町社会福祉協議会監査会　5 月 19 日（木）　監査員　村上良夫

○財政援助団体監査　11 月 4 日（金）　海士町監査員　中本勝利　上田正子

（４）評議員会

第 1 回	平成 28 年 5 月 24 日（火）	趣味の部屋	出席 18 名
議題	１．平成 27 年度事業報告・決算報告について ２．監査報告について ３．平成 28 年度第 1 回補正予算（案）について ４．理事・監事の選任について ５．その他		

第 2 回	平成 28 年 12 月 22 日（木）	趣味の部屋	出席 16 名
議題	１．平成 28 年度第 2 回補正予算（案）について ２．定款の変更について ３．評議員選任・解任委員会運営細則の策定及び委員の選任について ４．介護・育児休業規則の一部改正について ５．その他		

第 3 回	平成 29 年 3 月 28 日（火）	趣味の部屋	出席 18 名
議題	１．平成 28 年度第 3 回補正予算（案）について ２．定款変更について ３．理事会運営規程　評議員会運営規程の策定及び事務処理規程の改正、定款細則の廃止について ４．評議員・理事・監事選任規程の策定及び評議員選任規程の廃止について ５．役員等で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する規程の改正について ６．経理規程の改正について ７．平成 29 年度事業計画及び予算案について ８．　その他		

（５）評議員選任・解任委員会　（3 月 23 日）

（６）経営会議（局長・部長会議）　毎月開催　計 21 回開催

（７）拡大部長会議　事業所連絡会　（4/20　5/18　6/17　7/20　9/21　12/7　12/14　12/26）

（８）職員会議　（４月１日・３月１日）

２．会員会費及び篤志寄付等　　※順不同・敬称略で掲載しています

（１）会員会費　　合　計　2,094,900 円　（H27　2,023,200 円）

○一般会員（年額 1,900 円）　1,654,900 円　（H27　1,592,200 円）　＜納入率 92％＞

＜地区名＞	＜納入世帯数＞		＜金　額＞
菱　　浦	178 世帯	（100%）	338,200 円
福　　井	32 世帯	（103%）	62,700 円
西	43 世帯	（91%）	74,100 円
中　　里	111 世帯	（93%）	195,700 円
東	141 世帯	（93%）	248,900 円
北　　分	102 世帯	（80%）	155,800 円
宇　受　賀	65 世帯	（98%）	121,600 円
豊　　田	49 世帯	（94%）	87,400 円
保　々　見	26 世帯	（100%）	49,400 円
知　々　井	42 世帯	（76%）	60,800 円
御　　波	70 世帯	（74%）	98,800 円
多　　井	10 世帯	100%）	19,000 円
崎	71 世帯	（94%）	127,300 円
日　須　賀	8 世帯	（100%）	15,200 円

※納入世帯（　）は納入率

○特別会員（1 口　10,000 円）　340,000 円　（H27　340,000 円）

＜会　員　名＞	＜納入額＞	＜会　員　名＞	＜納入額＞
飯古建設	100,000 円	信栄堂印刷	10,000 円
島根県農協海士支店	10,000 円	北峯工務店	20,000 円
元吉燃料（有）	20,000 円	中ノ島クリーンセンター	10,000 円
山陰合同銀行海士支店	10,000 円	（株）宇野	10,000 円
八幡鉄工所	10,000 円	亀田商店	10,000 円
奈伎良海運	20,000 円	ゆうでん海士店	10,000 円
三好石油店	10,000 円	ファミリーショップくわもと	10,000 円
わきたに商店	20,000 円	ムコヤマ	10,000 円
隠岐国商工会	10,000 円	ブックスたなか	10,000 円
岡田石材店	10,000 円	割烹いけだ	10,000 円
桑本石油	10,000 円		

○賛助会員（年額 3,000 円以上）　85,000 円　（H27　91,000 円）

＜会員名＞	＜納入額＞	＜会員名＞	＜納入額＞
山内　道雄	10,000 円	花岡　重利	5,000 円
澤田　恭一	5,000 円	大森　芳信	5,000 円
田中　久夫	5,000 円	片桐　憲一	5,000 円
野津　明子	5,000 円	浅野　桃代	5,000 円
町議会一同	30,000 円	片桐　一彦	5,000 円
若林　宣男	5,000 円		

○団体会員（年額 5,000 円以上）　あま福祉会　10,000 円　NPO だんだん 5,000 円

（２）篤志寄付金等　　合計 907,000 円

○香典返しとして　30 件　845,000 円　　(H27　1,000,000 円)

＜氏　名＞	＜氏　名＞
田辺亜季子	沼田　洋一
熊本　善武	松尾　利徳
大野　隆信	大江　充
銭谷　健二	松前　一孝
金谷　謙造	前川　清司
岡村　鉄丸	濱見　源作
福島　康利	八幡　和明
濱　洋幸	保野　ひとみ
山根　富重	柏谷　輝雄
澤田　勝巳	柏原八重子
小濱　博則	長尾　初子
井上　正人	下野　裕
中島　秀男	
中村　敏子	
黒川　隆志	
倉崎　長徳	
村川　勇	
山下　久代	
村尾　泰弘	

○見舞い返しとして　1 件　山根竹尾

○篤志寄付金として　7 件　22,000 円　　(H27　260,000 円)

＜氏　名＞
本多　一弘
西浜久美子
（福島信義）
番家アキ子

（３）物品寄贈

○一般財団法人中国郵便局長協会　車椅子 4 台寄贈　（8 月 12 日）
○山陰合同銀行ちいさな親切運動　車椅子 1 台寄贈　（10 月 31 日）
○島根県生命保険協会　福祉巡回車寄贈　（11 月 21 日）

３．会議・研修会等

（１）役員部門

会議・研修会名	研修月	場　所	参加者
社協トップミーティング	7 月	松江市	杵築泰久
市町村社協会長会総会	9 月	松江市	杵築泰久
隠岐地区社協連絡会	10 月	隠岐の島町	杵築泰久
市町村社協トップセミナー	1 月	松江市	杵築・片桐
社会福祉法人役員セミナー	2 月	松江市	杵築泰久

（２）会　議

会　議　名	開催月	場　所	参加者
隠岐老研理事会	4 月	隠岐の島町	片桐一彦
さくらの家　就労評価会	4 月	海士町	片桐一彦
老人クラブ役員会	4 月	海士町	瀧川千恵子
3 施設長・役場協議	4 月	海士町	片桐一彦
産業保健連絡会	4 月	海士町	藤田幸子
市町村民児協事務局長会	4 月	松江市	片桐一彦
地域包括ケア連絡会	5 月	海士町	片桐一彦
みどり会総会	6 月	海士町	瀧川千恵子
海士町福祉交流事業説明会（島根総合福祉専門学校）	6 月	松江市	片桐一彦
海士町健康づくり推進協議会	6 月	海士町	片桐一彦
社会福祉法人集団指導	6 月	隠岐の島町	藤田幸子
民生児童委員調査研修	6 月	松江・黒部	法人運営部
地域福祉推進委員会	6 月	松江市	瀧川千恵子
共同募金運営委員会・審査会	6 月	海士町	法人運営部
手をつなぐ親の会総会	6 月	海士町	法人運営部
島根県共同募金事務局長・担当者会議	6 月	隠岐の島町	片桐一彦
隠岐広域連合　包括ケアシステム運営協議会	8 月	隠岐の島町	片桐一彦
GPS 認知症探知機説明会	8 月	海士町	片桐一彦
公益しまね助成ファンド審査会	9 月	松江市	片桐一彦
県民福祉大会	9 月	松江市	片桐一彦
制度改革説明会	9 月	海士町	片桐一彦
経営戦略セミナー	10 月	松江市	片桐一彦
隠岐地区社協連絡会	10 月	海士町	片桐一彦
隠岐圏域地域包括ケアシステム運営協議会	11 月	隠岐の島町	片桐一彦
中央児童相談所里親制度説明会	11 月	海士町	片桐一彦
年末調整説明会	11 月	海士町	藤田幸子
福来 DS 運営推進会議	11 月	海士町	片桐一彦
隠岐広域連合　主任ケアマネ連絡会	11 月	隠岐の島町	亀谷美也子
アイランダー	11 月	東京	髙橋ルミコ
役場総合事業協議	11 月	海士町	法人運営部
市町村社協戦略会議	11 月	松江市	法人運営部
財務諸表等電子開示システム説明会	1 月	西ノ島町	法人運営部
市町村社協総務担当部課長会議	1 月	松江市	瀧川千恵子
島根県老施協役員会	1 月	松江市	片桐一彦
要配慮者利用施設の管理者に対する説明会	2 月	西ノ島町	村尾清
市町村共同募金委員会事務局長担当者会	2 月	松江市	瀧川千恵子
市町村社協事務局長会　地域福祉推進委員会	2 月	松江市	片桐一彦
共同募金運営委員会　審査委員会	2 月	海士町	法人運営部

会　議　名	開催月	場　所	参加者
公益しまね助成ファンド審査会	3月	松江市	片桐一彦
障がい者就労支援連絡会	3月	海士町	片桐一彦
情報発信の会	通年	海士町	片桐一彦
地域ケア会議	通年	海士町	担当者
入所判定会議	毎月	海士町	片桐一彦

（3）職員研修

〇職場外研修（OFF－JT）

研修会名	研修月	場　所	参加者
市町村社協福祉教育担当者研修	5月	松江市	佐々木裕之
リスクマネジメント研修	5月	松江市	岡本真実
社会福祉法人生涯研修　初任者研修課程	6月	松江市	神在祐太
日常生活自立支援事業専門員研修	6月	松江市	佐々木紀美
認知症介護基礎研修	6月	松江市	岡本真実
島根県老施協　訪問介護部会研修	7月	松江市	福島敏枝
隠岐地域ケアマネ協会研修会	7月	隠岐の島町	亀谷美也子
隠岐老研研修会　腰痛予防	7月	隠岐の島町	神在祐太
あいサポートメッセンジャー研修	8月	西ノ島町	髙橋ルミコ
チームリーダー研修	8月	松江市	福島敏枝
人権・同和研修会	8月	西ノ島町	片桐一彦
人事マネジメント研修	9月	松江市	瀧川千恵子
会計実務研修　上級編	9月	松江市	瀧川千恵子
アローチャートでアセスメント研修	9月	隠岐の島町	村尾さ・和泉
介護職員に求められる医療知識	9月	隠岐の島町	新谷渚
隠岐老研介護食研修会	10月	隠岐の島町	梅野愛子・美弥
成年後見制度研修会	10月	西ノ島町	和泉洋三
社会福祉士実習指導者講習会	11月	松江市	佐々木紀美
島根県老施協デイサービス研修会	12月	松江市	岡本真実
介護塾　RX組　青山氏	12月	海士町	介護職員
介護支援専門員研究大会	12月	松江市	亀谷美也子
生活福祉資金運営研究協議会	12月	松江市	佐々木紀美
引きこもり支援ネットワーク研修会	1月	西ノ島町	瀧川・髙橋
緩和ケア領域における医療麻薬についての研修会	1月	海士町	訪問介護・髙橋
食支援セミナー　島前病院	2月	西ノ島町	H/DS
ボランティアコーディネータースキルアップ研修	2月	松江市	藤田幸子
介護塾　RX組　青山氏	2月	海士町	全介護職員
福祉人材確保セミナー	3月	松江市	片桐一彦
介護保険制度集団指導	3月	隠岐の島町	主任
障害者福祉サービス事業所集団指導	3月	松江市	福島敏枝

〇復命研修

研修会名	研修日	参加人数	講師・発表者
リスクマネジメント研修	5 月 26 日	26 名	岡本真実
社会福祉とイノベーション	5 月 27 日	28 名	佐々木裕之
初任者の役割とキャリアビジョン	6 月 9 日	27 名	神在祐太
認知症ケアの視点	6 月 20 日	27 名	岡本真実
人権研修（本人の意思決定と保護）	7 月 12 日	23 名	佐々木紀美
今すぐ手軽にできる腰痛予防	7 月 28 日	26 名	神在祐太
記録の書き方	8 月 23 日	28 名	福島敏枝
人材育成とコミュニケーション	9 月 27 日	26 名	瀧川千恵子
ケアプランと個別援助計画の関係を再確認	10 月 27 日	23 名	村尾さ・和泉
観察のポイント	11 月 11 日	25 名	新谷渚
職場の空気づくり	12 月 12 日	27 名	岡本真実
高血圧予防とお好み焼き	12 月 28 日	25 名	梅野愛子・美弥
将来を見える可　生活支援困窮者研修	1 月 6 日	26 名	佐々木紀美
障がいのある方の口になってみる	3 月 9 日	24 名	福島・髙橋

〇職員研修

・福祉×（　　）ゼミ

福祉×（漁協）ゼミ　海士町漁協　藤澤氏　4 月 19 日（火）
福祉×（セラピー）ゼミ　島の保健室　島根輝美氏　5 月 26 日（木）
福祉×（建築デザイン）ゼミ　わくわくデザイン　八木氏　（10 月 17 日）

・部内研修

「魚捌き研修」（5 月 25 日）　訪問介護部内研修
「腰痛予防と動作ケア」（6 月 3 日）訪問介護部内研修
「寝返り・起き上がり研修」（6 月 7 日）通所介護部内研修
「姿勢管理とポジショニング研修」（6 月 10 日）訪問介護部内研修
「特殊浴槽での入浴研修」（6 月 27 日）通所介護部内研修
「感染症研修」（8 月 17 日）　訪問介護部内研修
「下山名月研修会　復命研修」（8 月 30 日）訪問介護部内研修
「感染症研修」（11 月 15 日）訪問介護内部研修
「感染症研修」（12 月 12 日）通所介護内部研修
「介護入浴研修」（12 月 26 日・1 月 5 日・1 月 17 日）訪問介護内部研修
入浴介助支援方法及び環境整備について（1 月 30 日）訪問・通所介護共同研修
「口腔ケア研修」　海士診療所　今村歯科衛生士　3 月 14 日（火）介護職員

・職員研修

実務者養成研修スクーリング　藤田幸子　五十島美香　（7 月～）
介護研修会「遊ビリテーション・移乗介助研修」下山名月氏　（8 月 6 日）
介護研修会「シーティング研修」下山名月氏　（8 月 7 日）
感染症研修　海士診療所　福島・髙橋　（10 月 17 日）
認知症研修　タクティールケア　（10 月 18 日）

（4）法人連絡会　4 回開催

（8 月 10 日・10 月 3 日・2 月 16 日・3 月 16 日）

４．視察・実習・講演・掲載

（１）視　察

・平成メディカル　福祉用具管理工程視察　佐々木・村尾（４月）
・米子ホスピスタウン　視察　職員研修として（7 月）
・介護付有料老人ホーム　「新」　片桐　（9 月）

（２）視察（受入）・体験・実習

・イオンワーカーズユニオン研修（4 月 7～8 日）
・シンガポール学生視察　通所介護　（6 月 9 日）
・KT 福祉研究所　松藤來島（6 月 17 日）
・味の素労働組合ラーニングジャーニー（6 月 18 日）
・福祉人材確保 Detox ツアー（8 月 4 日～7 日　11 月 10 日～13 日）
・島根総合福祉専門学校（8 月 8 日）
・東京大学教育学部学生（8 月 12 日）
・東京大学医学部学生（8 月 25 日）
・RX 組　青山氏（8 月 27 日）
・神山町視察（8 月 29 日）
・乙武洋匡氏来所（9 月 2 日）
・鳥取大学　地域学　（9 月 7 日）
・味の素職員視察　（9 月 23 日）
・イノベーション研修　日立製作所（10 月 6 日）
・社会福祉法人　花の村視察　（11 月 14～15 日）
・島根大学　宮本教授　（2 月 20 日）

（３）講演・実践発表

・海士町福祉人材確保イベント　船上オイスタークルーズ　東京　佐々木（6 月）
・海士町福祉人材確保イベント　あま食（離島キッチン）　東京　片桐（6 月）
・福祉人材戦略フォーラム　六本木ベルーサ泉　東京　片桐　（7 月）
・島根県保育協会　人材プロジェクト会議　松江　片桐　（7 月）
・海士町福祉人材確保イベント　あま食（離島キッチン）　東京　片桐（9 月）
・中国地区老施協　施設長研修会　片桐　（10 月）
・広島県老施協総会講演　広島　片桐　（3 月）

（４）掲載・投稿

・日本地域福祉研究所　コミュニティソーシャルワーク　（6 月）

地域福祉事業

【平成 28 年度の重点目標・計画の評価】

○常に地域に入り「歩く、見る、聞く、考える」で地域を学ぶ

常に地域に入ることができなかったが、ボランティア、配食、集金など、地域に出かける機会に地域把握や関係性を築くことを意識した。また他機関の関係づくりなども積極的に動き、季節を通じた地域の表情を感じることも意識した。情報収集したことを包摂会議等で共有していくことに課題が残った。

○集落支援員と連携し、生涯現役の地域づくりを行う（モデル地区　保々見）

生涯現役の地域づくりをどのように目指すのか明確な方向性やゴールを設定することができなかった。集落支援員や地域おこし協力隊も地域での活動を行っており、連携を取った活動ができればいいが、それぞれの役割が明確でないため連携できなかったことが課題として残された。

○新たな支え合いファンドを活用し、有償ボランティアサービスを検討する

有償サービスや新たな支えあいファンドについて経営会議にて検討した。有償サービスは介護保険の改正で予防サービスの新たな総合事業への移行もあり、社協として今後検討していく必要があるが新たな支えあいファンドは事業ありきでことを進めるのは危険であると、時期尚早とした。
隙間サービスを展開するのも大切だが、個人のニーズと有償ボランティアをつなげるだけではなく、得意なことを社協などの機関（場）とつなげていくことの仕掛け作りを来年行う。

○民生児童委員の改選にともなう業務の引継ぎ等を円滑に行う
○福祉学習の推進（※総合方針参照）

１．地域住民の多様な生活・福祉課題に向けた総合相談・セーフティネット機能

（１）相談支援事業部門

日常生活自立支援事業、生活福祉資金貸付制度の申請は無かったが、生活支援や民生融金についてなど様々な相談があった

○権利擁護等総合相談
○日常生活自立支援事業　相談件数　延べ 112 件
○生活福祉資金貸付制度　・生活福祉資金貸付利用者 1 名（修学資金返済）
○民生融金貸付　・民生融金貸付利用者　1 名（償還 1 名）

２．成長段階に応じた福祉学習の推進

（１）幼児期

○保育園世代間交流　（6 月 1 日・12 月 7 日）

（２）小学校

○挨拶運動（民児協）　福井小（5 月 12 日）海士小（5 月 18 日）
○福井小学校　福祉学習　（11 月 8 日・11 月 17 日・12 月 1 日・12 月 8 日）

〇海士小　子ども議会　インタビュー（12 月・1 月）
〇子ども会議予備会議　（1 月 27 日）

（３）中学校

〇挨拶運動　民児協（5 月 16 日）
〇サマーボランティアキャンプ　3 年生（7 月 26～27 日）
〇職場体験　2 年生　（11 月 21～25 日）
〇奉仕活動・交流ボランティア　（12 月 7 日）

（４）高　校

〇島前高校歩こう会（4 月 19 日）
〇ガンプラサロン（4 月 24 日・6 月 4 日・9 月 9 日）
〇島前高校校長（学校）訪問（5 月 9 日）
〇島前高校おもいやりライトボランティア（5 月 29 日）
〇島前高校学生認知症講義（5 月 29 日）
〇島前高校　地域国際交流部　アルミ缶集めボランティア（6 月 13 日）
〇島前高校 1 年生　地域学授業（6 月 14 日）
〇夢ゼミ　地域通貨について（6 月 22 日）
〇まちづくり甲子園（7 月 16～17 日）
〇研修旅行に向けて講義（9 月 14 日・9 月 29 日・10 月 1 日）
〇地域生活学　（10 月 13 日）
〇ビジネスプラン発表会　（12 月 8 日）
〇島前高校夢探求発表　（12 月 15 日）
〇インターンシップ　2 名　（2 月 6～10 日）
〇島前高校　福祉学習　2 年生地域創造コース　（2 月 17 日・3 月 10 日）

（５）成人

〇宇受賀サロンにて介護塾　（11 月 25 日）

（６）協議・研修会等

〇島根総合福祉専門学校実務者研修について協議（4 月 13 日）
〇教育委員会と福祉学習協議（5 月 2 日）
〇諏訪苑・だんだん福祉学習協議（5 月 6 日）
〇市町村社協福祉教育担当者研修会（5 月 13 日）

３．地域における子育て支援体制の充実・強化

キッズルームは子育ての悩みやストレス発散の場である。町内でも保育園やあまマーレ、お山の学校など様々な場があるが、地域とどのように繋がっていいのか分からない親の居場所として機能する必要がある。今後サークルに属していない人やどのように繋がっていいのか分からない親さんを集落支援員やしまの保健室等の機関と連携しながら展開していく。

〇フリースペース型サロン「温たまたまクラブ」利用人数（延べ）871 名　（H27　896 名）
〇子育てサロン環境整備　遊具の新設

４．福祉団体の主体的参加による地域福祉活動の支援

（１）民生児童委員協議会事務局運営
（２）老人クラブ連合会活動支援
（３）海士町身体障害者協会への支援
（４）手をつなぐ親の会事務局運営
〇交流事業　（9 月 25 日）
（５）みどり会事務局運営
（６）海士町共同募金委員会運営

５．地域住民の主体的な参加による生涯現役のまちづくり

（１）地域調査の実施
〇民生委員と実態調査
・北分地区（9 月 21 日）・知々井地区（10 月 26 日）・東地区（11 月 30 日）
・崎地区（1 月 30 日）・多井地区（2 月 10 日）

（２）ボランティアセンター運営
①ボランティア運営委員会の開催　年 5 回
〇正副会長会　11 月 1 日（火）

②情報収集・発信
〇広報「ささえあい　7 号（8 月）、8 号(12 月)、9 号（3 月発行）
〇あま Ch や社協ホームページを活用した情報発信

③ 住民同士が支えあえる仕組みづくり
〇おはぎづくり・配り活動 → 9 月 18・19 日（34 名）、3 月 16・17 日（23 名）
〇配食ボランティア活動
・配食ボランティアの集いひまわりと菱浦公民館に分けて 16 名参加
・菱浦配食 G 連絡会　（11 月 22 日）
〇学校ボランティア活動　12/7 海士中学校　ひまわり清掃活動と DS 利用者へ歌を披露 15 名
〇島前高校生 →　社協デイサービスでの高齢者交流（計 14 日、のべ 41 名）
〇ハーブガーデンボランティア活動　　相談対応･IP 告知とあまチャンネル活用　（年 5 回）

④ボランティア活動の啓発
〇ボランティア祭　平成 28 年 11 月 3 日(木)　13：00～15：30
〇テーマ：「つながり、ささえあい」　※当日のボランティアスタッフ　82 名
〇参加団体代表連絡会　10 月 6 日（木）

（３）地域福祉活動推進組織への支援
〇ハーブ友の会　島根県社会福祉協議会　会長感謝状（9 月 14 日）

地域支援事業

１．出前サロン（こぞって）

今年度は制度改正がある平成 29 年度の新しい総合事業への移行に向けて、役場と協議を重ねた。地域での新たな支えあいの仕組みをつくるために、数多く出前サロンを開催できるよう時間や内容、スタッフの数を検討した。多井地区と崎地区でモデル開催を行った。

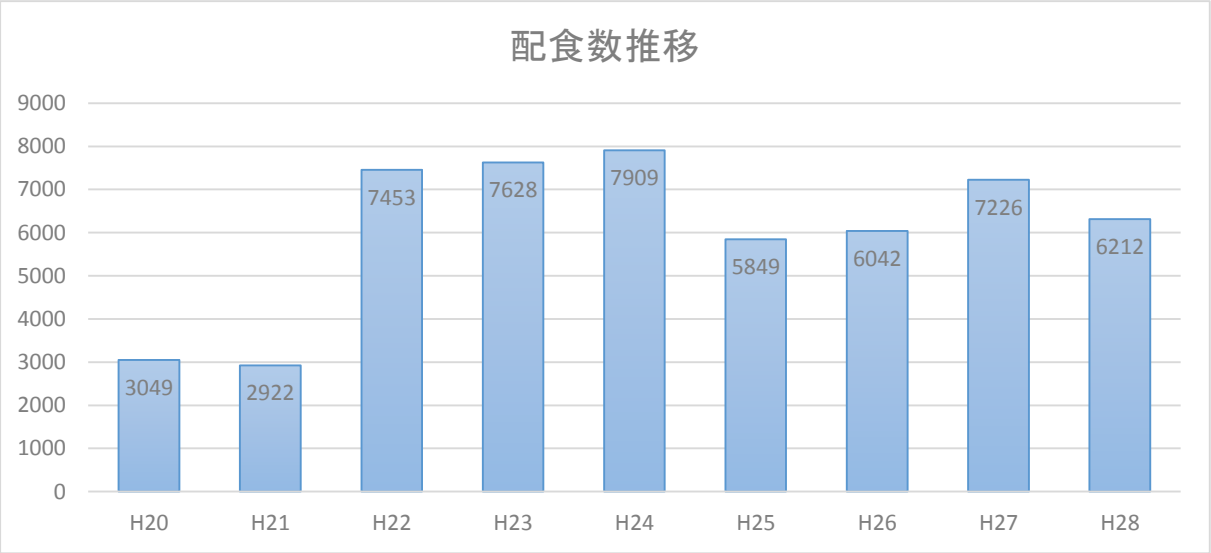
２．認知症高齢者等をかかえる家族に対する支援事業（介護者の集い）

今年度は介護を終える家族が増え、在宅介護をしている人は仕事を持っている状況で、集いの参加者が減少した。今後介護者の集いのあり方やグリーフケアを検討するなど、転換期に来ている。

日時	参加人数	実施内容
5 月 19 日	6 名	隠岐の島町遠足
7 月 20 日	8 名	シーガラスランプ作成
10 月 19 日		認知症研修会（タクティールケア）
12 月 14 日	5 名	島のほけんしつ「蔵」フットケア
2 月 15 日	4 名	陶芸教室

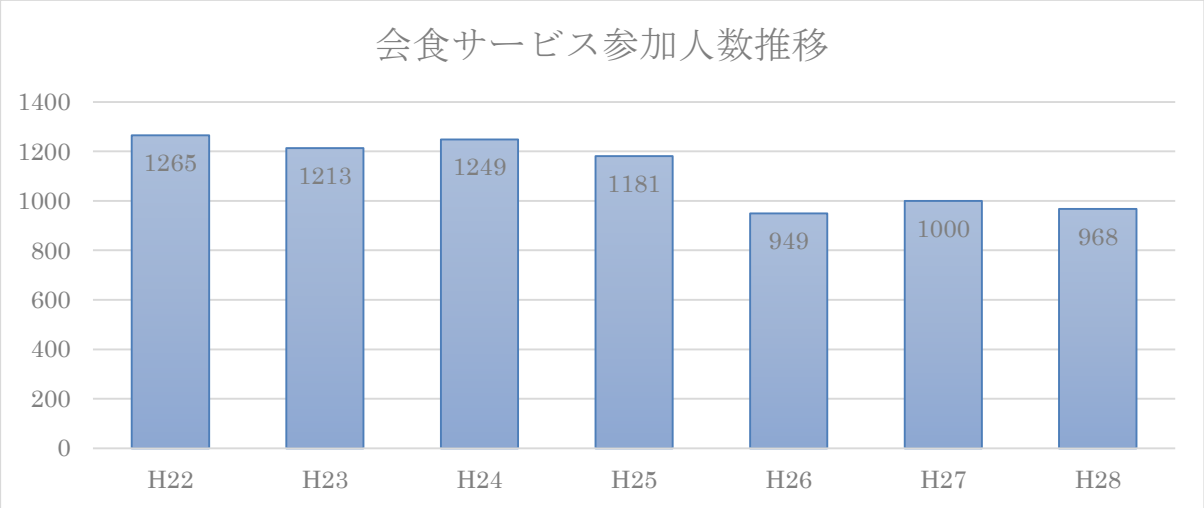
３．食の自立支援事業（月～日曜日） 6,212 食 （H27 7,226 食）

障がい児見守り配食サービス事業 120 食 （H27 34 食）



４．会食サービス　参加人数（延べ）計　968 人（H27　1,000 人）

7 地区で実施（菱浦・福井・中里・東・北分・宇受賀・崎）

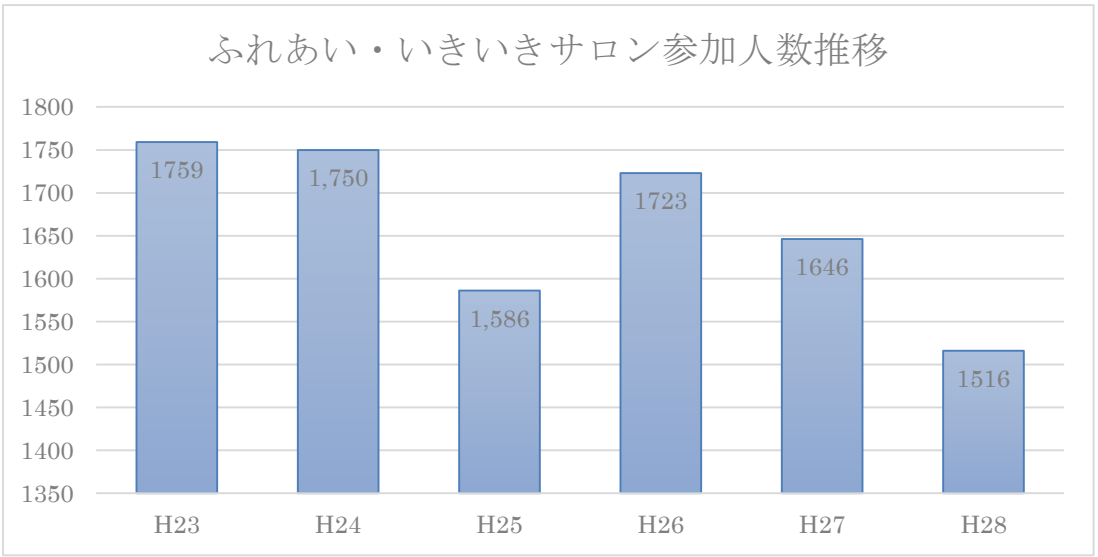


５．ふれあい・いきいきサロン　　参加人数 1,516 人

〇10 地区で実施

・菱浦にこにこ会　・いきいきサロンふくい　・中里なかよし会　・東いきいきさわやか会
・北分いきいき友の会　・ふれあい宇受賀・知々井いちょう福祉会　・御波すずらんの集い
・多井よら～や会　・崎野菊の会

〇ふれあい・いきいきサロン代表者会　3 月 8 日（水）



在宅福祉サービス事業

１．訪問介護部門

【平成 28 年度の重点目標・計画の評価】

①ターミナルケアや認知症ケアのスキルアップを始め、専門職としてコミュニケーション能力の向上を図る

訪問看護と連携しターミナルケア後のデスカンファレンスを行い、次回のケースに繋がるものとなった。認知症は部内研修できなかったが、町が開催した認知症研修会に参加し研鑽を積んだ。

②現場実習等を受け入れ、訪問介護員（介護福祉士）の養成を行う

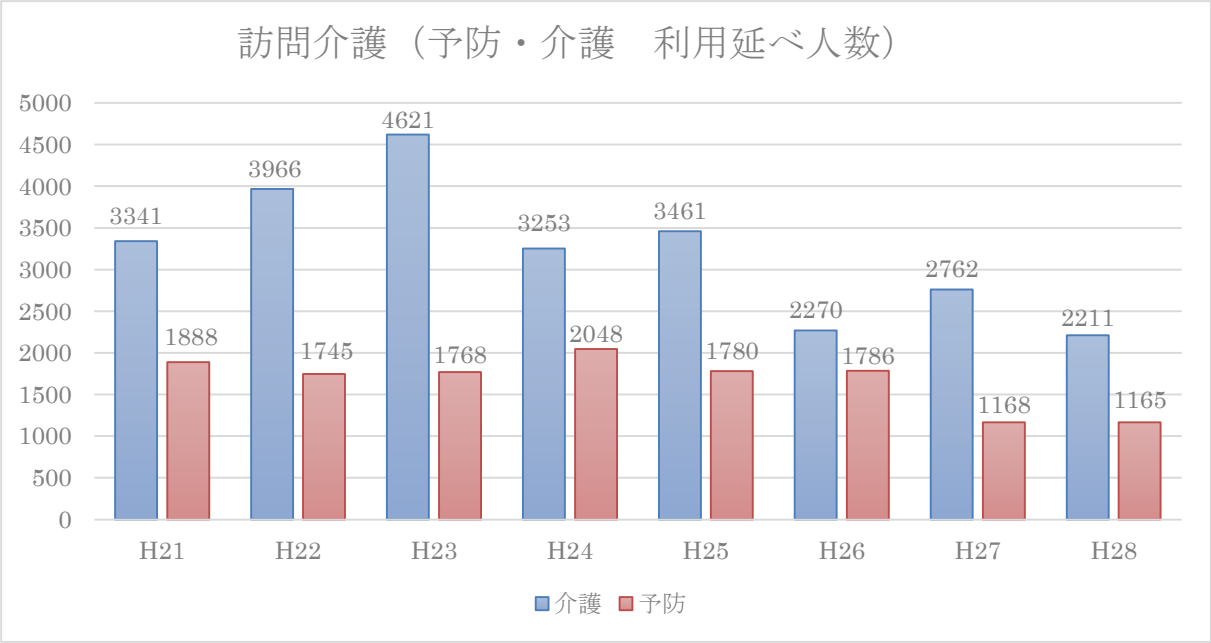
介護福祉士等の養成実習は無かったが、福祉学習として高校生や小学生を受け入れヘルパーの体験を通じて福祉の人材育成を行った。

③訪問介護・居宅介護として地域の声を聞き、より良い暮らしの実現を目指す

利用者の地域や暮らしの情報を聞き、そのニーズや課題に併せた関わりをケアマネ等他機関と連携して行うよう心がけ、部内研修や連絡会、ミーティングを充実させた。

（１）利用実績

介護保険	稼働時間（介護）	利用人数（介護）	稼働時間（予防）	利用人数（予防）
平成 28 年度	1813 時間	2,211 人	1,103 時間	1,165 人



〇精神障がい者居宅介護（H28 実績　利用延べ人数 55 名　稼働時間 58 時間）

２．居住（生活支援ハウス）部門

【平成 28 年度の重点目標・計画の評価】

①安心と楽しみを目指した居住環境（畑会議等）づくりを行う
②入居者理解のもと、おもてなしから自立支援へ対応をシフトする

年度初めより入居者と一緒に山菜採りや筍掘りに出かけ、採れた産物は昔ながらの処理方法を教えてもらい、郷土の味付けにこだわって入居者で食した。畑会議を行いながら、春にはジャガイモ植え、5 月は夏野菜（トマト・ナス・きゅうり・ピーマン）を植えた。野菜の成長が気になり朝夕畑に通う入居者が増え（土日は畑の草取りが生きがいになる入居者も）、適度な運動と日々の楽しみができた。秋には大根で間引き菜を食し、収穫した大根は香香漬けを作り厨房の一品にした。
居住の行事として春のドライブ、昼食会、年度末に春を慶ぶ食事会を行った。退去者のお別れ会では演芸を行い入居者やデイサービスの参加者も一緒に楽しんだ。
福祉学習の受け手として小学生から高校生までヘルパー体験や世代間交流を行った。

③居住の帳票を作成し、連絡会議等で誰もが共有できる仕組みをつくる

時間の調整ができず、居住者のファイルや帳票の整理が思うようにできず課題が残った。

④家族会の設置を見据え、身元引受人との連携を強化する

ご家族（身元引き受け人）に生活の様子が分かるよう広報を発送し好評だった。
家族の帰省の際には面談を心がけ、入居者の状態共有に努めた。

（１）利用状況

〇入居者数 18 名（3 月 31 日現在）退居者 4 名（諏訪苑等の他施設へ）　新入居者 3 名
〇利用者介護度状況

	認定外	支援１	支援２	要介１	要介２	要介３	要介４
H27	0	4	5	8	1	0	0

（２）居住連絡会の開催

〇毎月第一木曜日　16：00～17：00　年 11 回開催し他職員と情報共有や課題解決に努めた。

（３）入居者家族との面談の実施

〇入居者家族の帰省等にあわせて実施

（４）情報発信・広報発行

〇入所者の家族向けの広報「スマイル」発行　年 2 回

（５）避難訓練・研修

〇夜間想定避難訓練　（1 月 6 日）
〇感染症研修の実施

３．通所介護部門

【平成 28 年度の重点目標・計画の評価】

①認知症ケアに取り組み、認知症にやさしい地域づくりを目指す。
認知症基礎研修会に参加し、認知症利用者の支援カンファレンスの参考になった。将来は認知症デイサービスに向けた方向性にしたい。

②機能訓練・介護技術のスキルをあげ、利用者の生活機能向上を図る。
専門家の指導や研修を受け、機能訓練等実施することにより、介護度変更や自立に向けた支援を行った。また、特浴入浴者が個浴入浴へとサービス変更にもつながった。

③人材育成に向け 0JT 研修の強化を図る
個人のレベルアップを図るため各研修を実施。まだまだ現場レベルでの「気づき」が未熟である。

④リスクマネジメントに取り組み事故防止に努める。
ヒヤリハット、事故報告書を作成し対策予防に努めた。

⑤地元食材を利用した手作りの食事や、行事を取り入れた旬の食事を楽しんで頂く。
地元の方々に多くの野菜物や魚など頂き、地元産の食事を楽しみながら食することができました。

（１）各種研修会及び会議の開催・参画　※P8～11 参照

（２）年間行事

4 月	花見	崎地区・隠岐神社・金光寺
7 月	ぼけよけ神社大祭	民生委員参画
8 月	ハワイ企画	フラダンス
10 月	あったか交流会	手づくり長寿弁当・演芸
12 月	忘年会	寿司バイキング・カラオケ・相撲

○機能訓練部門
　島前病院作業療法士指導　１回/２ヶ月

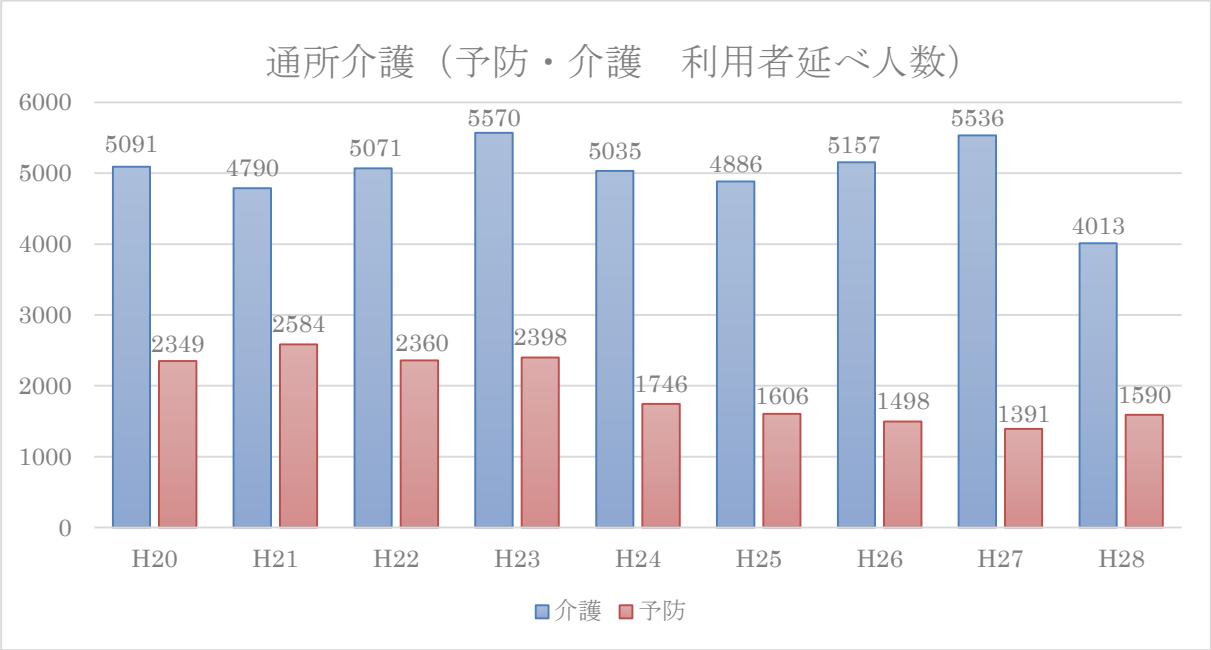
（３）交流事業・実習生・ボランティア受け入れ

○慶照保育園交流事業　（神楽・手遊び・民謡）
○島前高校　町づくり甲子園
○島高校生ボランティア　土曜日デイサービスに参加　延べ人数 41 名
○島根輝美さんボランティア　アロマ施術実施

（4）利用実績

○通所事業延べ利用人数

	介護給付	予防給付	認定外者	出前	障がい者
平成 28 年度	4,013 人	1,590 人	357 人	19 人	32 人



４．居宅介護支援部門

【平成 28 年度の重点目標・計画の評価】

①地域包括ケアシステムの充実を目指したチームをつくる

包括ケアシステムの充実にむけて、ケア会議を中心に関係機関との連携強化を図った。医療機関とは自宅生活が分かる入院情報提供表を提供、退院前にはカンファレンスを行うなど、在宅生活の再開支援への連携を図った。

②ケアプランの点検を行い、海士町唯一の居宅介護支援事業所として個々のスキルを高める

地域の暮らしを見つめたアセスメント力の養うため、様々な研修の場に参加した。アセスメントの目線が高まり、利用者の暮らしや地域理解が深まるとともに、課題の意味づけや根拠、見通しなどを明らかにしたケース検討を行なうことができた。

隠岐広域連合給付適正事業ケアプラン点検実地指導があり、支援や社会資源の活用等について学びを深めた。

③住民が地域で安心して暮らせる仕組み（方法）を見出す

身近な総合相談窓口として住民の相談対応を継続し、社協包摂会議の場で検討を重ねた。

（１）介護支援専門員設置状況

○ 介護支援専門員 3+1 名体制（主任介護支援専門員 1 名、介護支援専門専従 2 名兼務 1 名）により運営を行った。

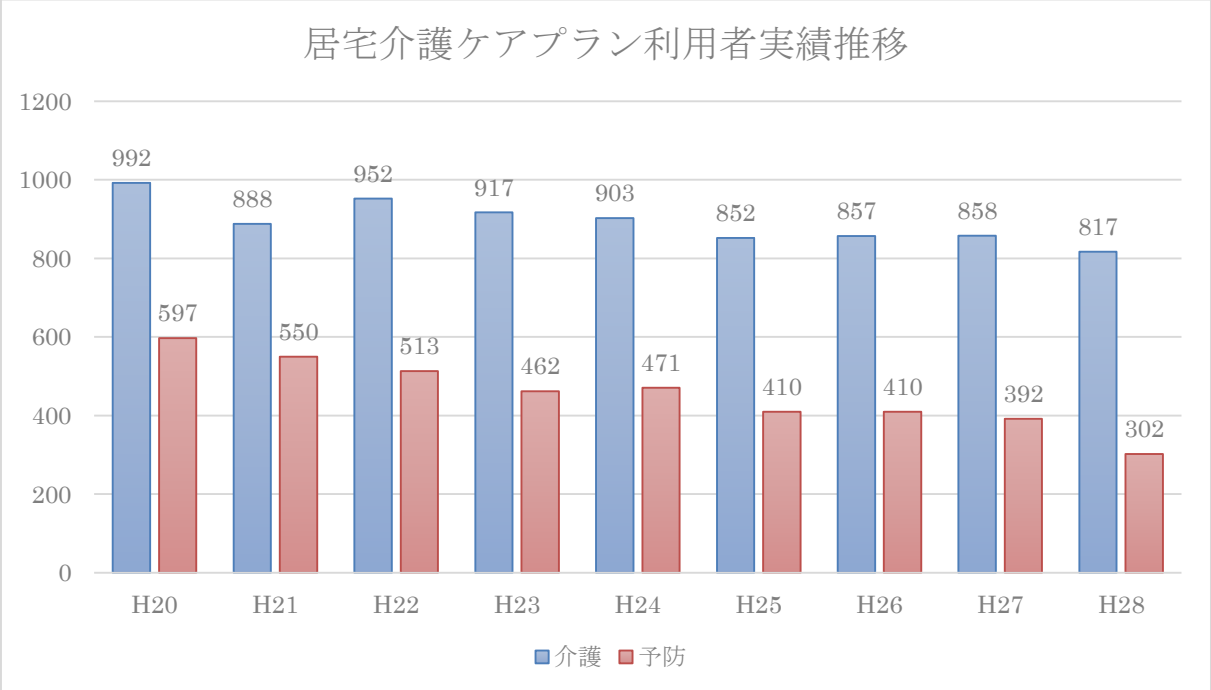
（２）居宅介護予防計画利用実績（要支援 1～2）；302 件　※28.4 月～29.3 月

○　海士町包括支援センターの受託事業を継続（4,300 円／件　新規@7,300 円）

（３）居宅介護計画利用者実績；居宅介護計画利用者のべ件数 816 件（新規 29 件）

（４）住宅改修　　9 件　　福祉用具購入　　13 件

（５）各種会議の開催・参画状況　※P8～11 参照



５．福祉用具貸与部門

【平成 28 年度の重点目標・計画の評価】

①介護ロボット等の最新の福祉機器等の情報を取り寄せ、住民へ情報を発信する

介護ベッド・ロボットの情報はあったが、取り寄せはできなかった。

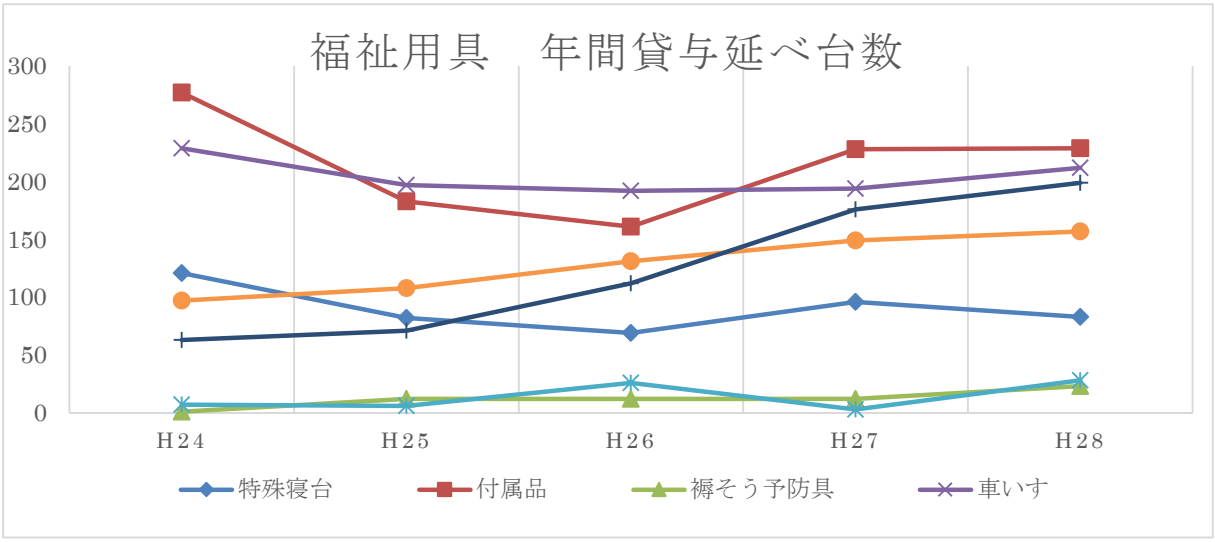
②専門職として、オムツや介護機器が説明できるよう研鑽を積む

利用者に対して既存の機器の説明はできたが、最新機器の情報は伝えられなかった。

（２） 利用実績

利用実績（年間貸与延べ台数）

	特殊寝台（電動ベッド）	付属品（ベッド付属）	褥そう予防具（エアマット）	車いす（電動含）	スロープ	歩行器	手すり
平成 28 年度	83	229	23	212	28	157	199



保健センター事業

【平成 28 年度の重点目標・計画の評価】

①行政と連携し、住民の交流の場として整備を行う

「島のほけんしつ」と連携して利用者の癒し空間整備の検討した。継続して施設内の空間作りを行なう。

②福祉避難所として準備を行い、災害時に備える

福祉避難場所として行政や各機関との連携が図れなかった。今後、設備の整備や避難場所としての物品の確認など役場と連携しながら進めていく。

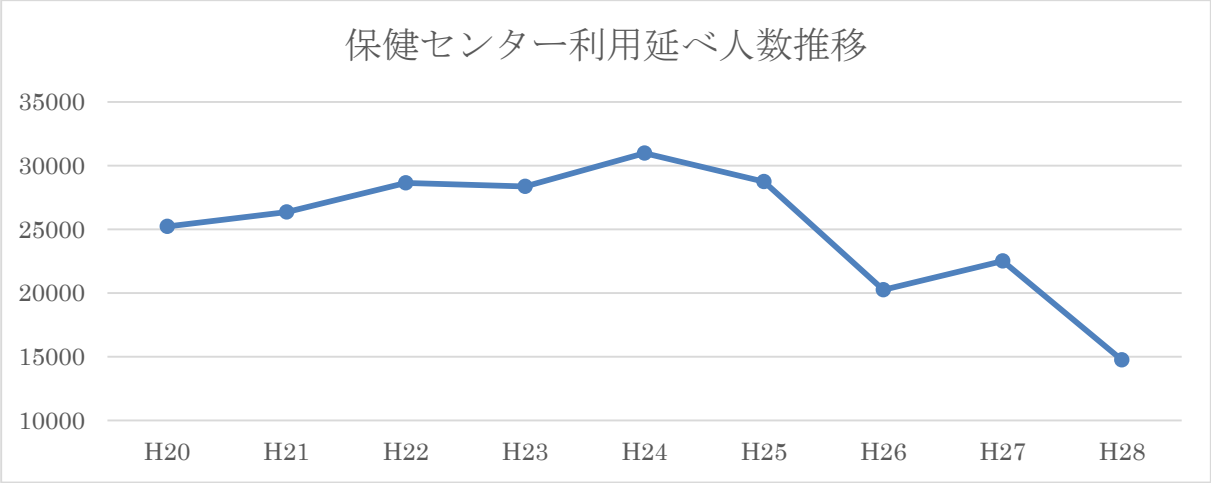
（１）施設衛生活動

○清掃ボランティア活動（海士中学校・海士ライオンズクラブ等）
○ハーブボランティア活動及び花壇整備

（２）各設備点検及び水質検査の実施

○水質検査　　（1 回／月）　　○レジオネラ属細菌検査（2 回／年）
○ボイラー点検　　（2 回／年）　○ろ過器点検　　（1 回／年）
○電気設備点検　　（5 回／年）　○消火用設備点検　（2 回／年）
○ろ過・ボイラー装置修繕（減圧弁エア抜き交換）
○温水管漏水・移設工事
○消防立ち入り検査（11 月 14 日）

（３）各種団体の施設利用支援と発表

○海士小学校プール教室　（7・8 月）　○海士町教育委員会生活合宿事業（7 月）
○島前高校テニス合宿　ヒトツナギイベント（8 月）
○海士町児童交流事業　　○運動教室事業（プール・エアロビ　1 回／月）
○放課後児童クラブプール事業（7～8 月）　○島根県社会保険協会　温泉利用事業
○公立学校共済組合施設利用助成事業
○県警音楽隊講演（10 月 28 日）

（４）利用実績